SKB

ボトムタイトADS　施工説明書

施工の前に、本書をよくお読みいただき、正しくご使用いただきますようお願いいたします。

不用意にトリガーを押さないでください

ボトムタイトがドアに取付され吊込まれていない状態でトリガーを強く押し込むと、装置が起動し、ボトムレールが下がりすぎて戻らなくなる可能性があります。絶対に行わないでください。万一戻らなくなった場合は、裏面の **ボトムレールが下に落ち、戻らない場合の対処方法** で回復させてください。

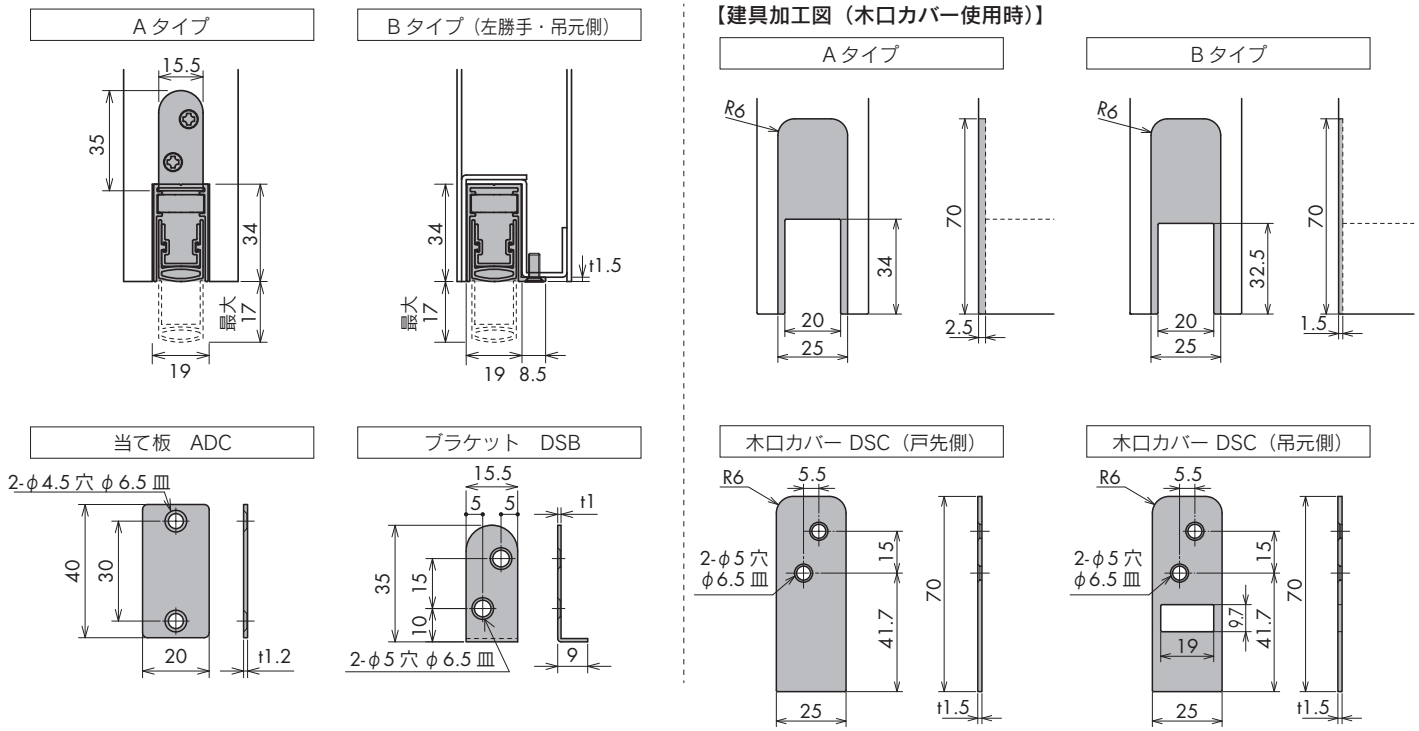
注意
・水掛かりのある場所では使用しないでください。
・ドアの変形によりレールが圧迫されると作動不良の原因になります。

セット内容

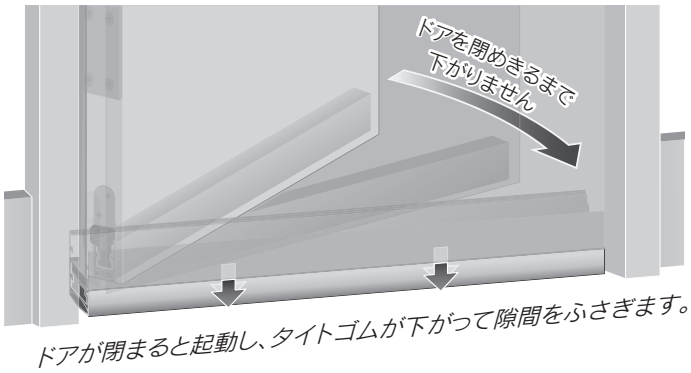
タイプ	名称・型番	入り数
A	ボトムタイト本体 ADS-A 材　質　レール：アルミ ゴ　ム：シリコーンゴム	1 セット
A	ブラケット DSB 材　質　ステンレス 付属ねじ　M4×20(D=6) 皿タッピン 4 本	1 セット
B	ボトムタイト本体 ADS-B(L/R) 材　質　レール：アルミ ゴ　ム：シリコーンゴム 付属ねじ　M4×10(D=6) 皿小ねじ [SUS]6 本 3.1×16 皿木ねじ 6 本	1 セット

タイプ	名称・型番	入り数
A・B 共通	当て板 ADC 材　質　ステンレス 付属ねじ　M4×10(D=6) 皿小ねじ [SUS]2 本 3.1×16 皿木ねじ 2 本	1 セット
A・B 共通	両面テープ	2 枚
A・B 共通	木口カバー　DSC 戸先用・吊元用　各 1 枚 材　質　ステンレス 付属ねじ　M4×20(D=6) 皿タッピン 4 本	1 セット

製品寸法図

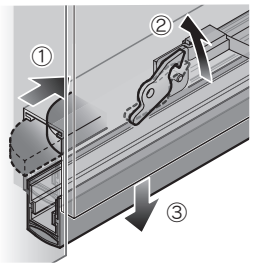


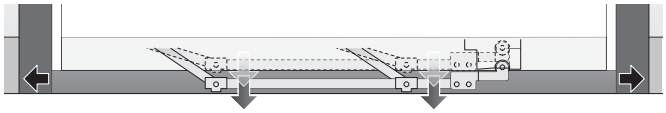
本製品の特長



・ドアを閉めるとき 床を引きずらない新機構

吊元側のトリガーが10㎜押し込まれると起動し、ダンパーを効かせながらボトムレールがゆっくり下がる構造です。



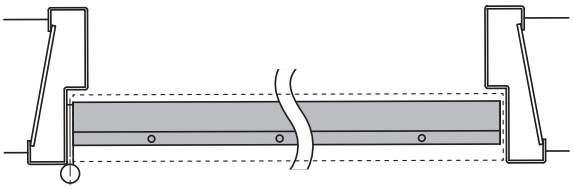


・しっかりと隙間をふさぐ独自構造

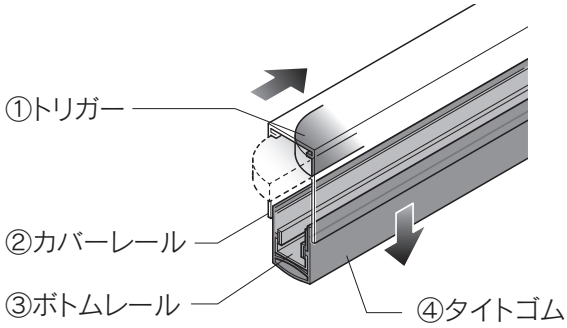
・確実に床へ接するように、垂直に降下して2点で押さえます。
・ボトムレール自体が±3㎜、左右に自在に動く仕組みで、縦枠との隙間を詰めやすくしています。

Bタイプ左右勝手

Bタイプの取付位置が偏芯する場合は、
左右勝手が発生します。
右図は左勝手を示します。



各部の名称



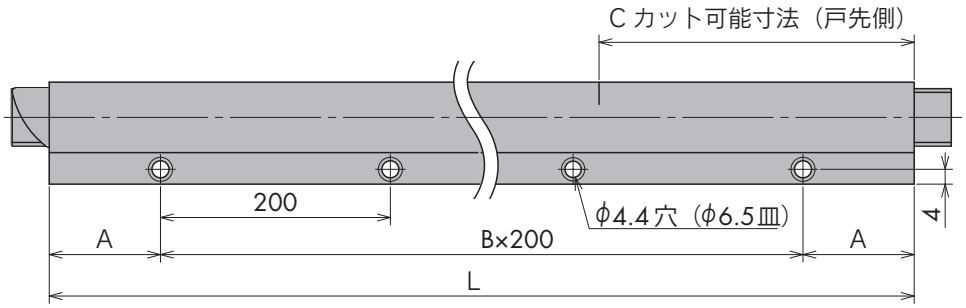
（単位：㎜）

製品サイズ	対応戸幅	カット可能寸法
L= 1,200	900～ 1,200	300以内
L=900	700～900	200以内

施工手順

1 長さの調整

1.カット寸法を決める



L	A	B	C	対応戸幅
900	50	4	200	700～900
1,200	100	5	300	900～1,200

施工手順

2 レール･タイトゴムのカット

1.レールをカットする

※必ず戸先側をカットする。

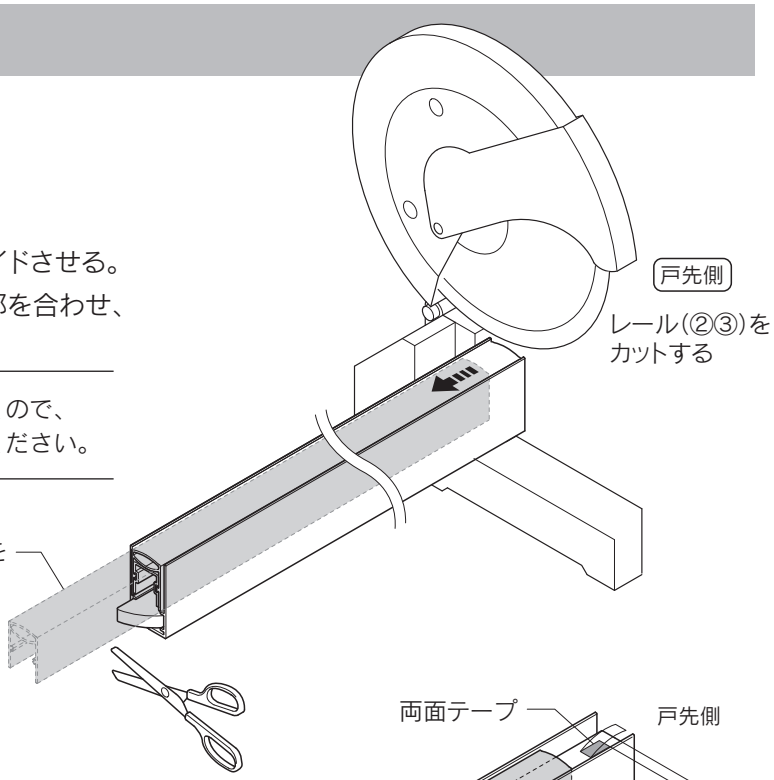
❶タイトゴム(④)を吊元側(トリガー側)にスライドさせる。

❷カバーレール(②)と、ボトムレール(③)の端部を合わせ、戸先側を必要な寸法でカットする。

注意　ボトムレールが左右に動くので、ずれないように注意してください。

2.タイトゴムをカットする

必要な寸法でカットする。



3.タイトゴムを留める

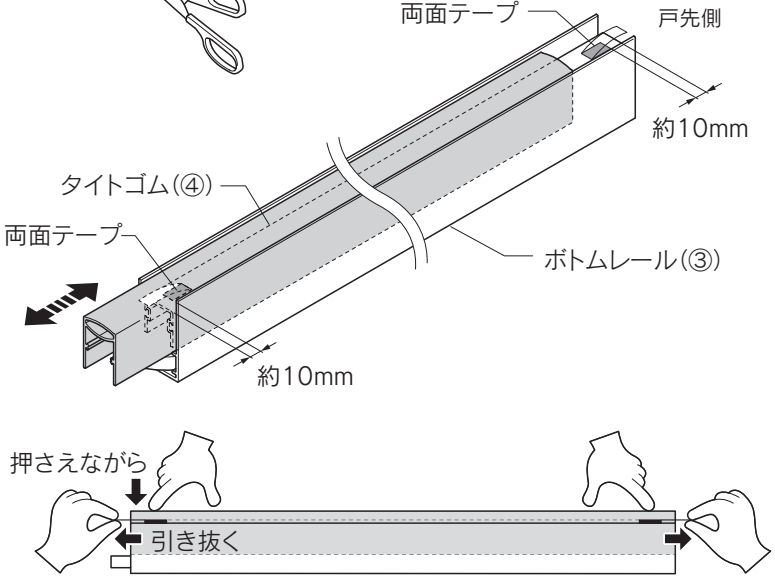
❶タイトゴム(④)をスライドさせてずらし、ボトムレール(③)の端から約10㎜の位置に付属の両面テープを張り付ける。

❷反対側も同じ要領で両面テープを張り付ける。

❸タイトゴム(④)をスライドさせて所定の位置へ合わせたら、タイトゴム(④)が動かないように押さえながら、両面テープの剥離紙を引き抜く。

※両側とも同じ要領でおこなう。

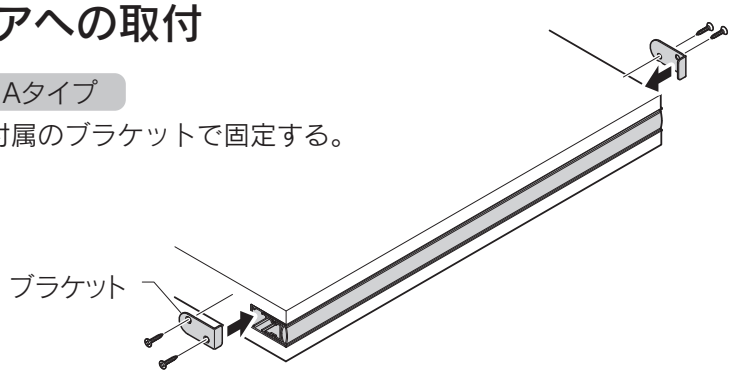
❹タイトゴム(④)の上から両面テープを2～3回押さえて、ずれないように固定する。



3 ドアへの取付

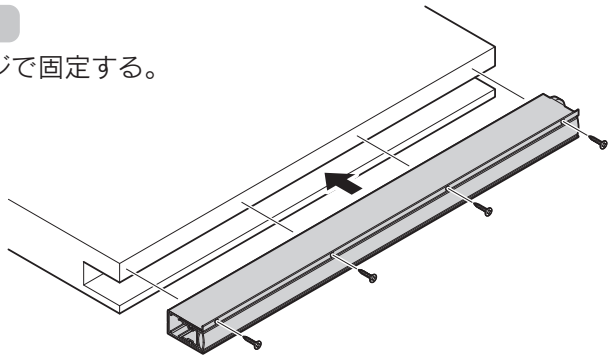
Aタイプ

付属のブラケットで固定する。



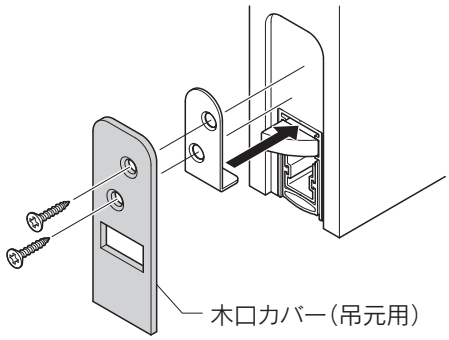
Bタイプ

付属のネジで固定する。



木口カバーを取り付ける場合

※図はAタイプで表しています。



※戸先側も同様に取り付ける。

施工手順

4 ドア吊込時の手順

1.当て板を取り付ける

吊元側の縦枠に、トリガーの当たる位置へ付属の当て板を取り付ける。

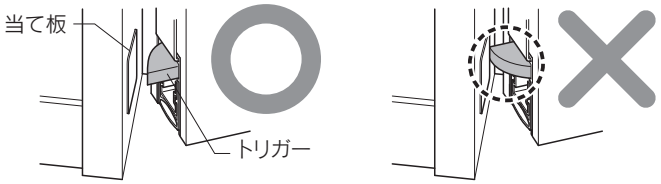
2.トリガーの向きをあわせ、出寸法を調整する

トリガーの向き

丸みをおびた部分があたるようにトリガーの向きをあわせる。

注意

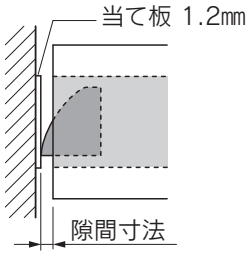
向きを間違えたまま使用を続けると、破損のおそれがあります。



出寸法の調整

❶ 吊元側の枠とドアの隙間寸法を確認する

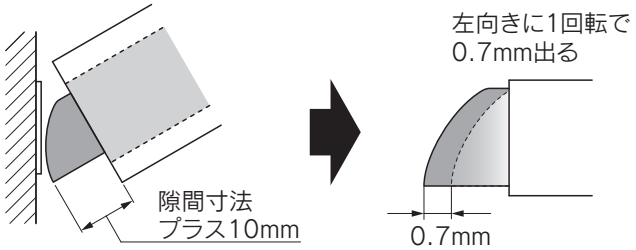
・当て板の厚みは1.2㎜です。



❷ トリガーの出寸法を、隙間寸法プラス10㎜付近に調整する

・出荷状態の出寸法は10㎜です。

・トリガーを左に1回転につきおよそ0.7㎜ずつ出寸法が大きくなります。



5 作動確認

ドアを閉じて起動することを確認する。

起動しない場合はトリガーの出寸法が不足していないか確認する。

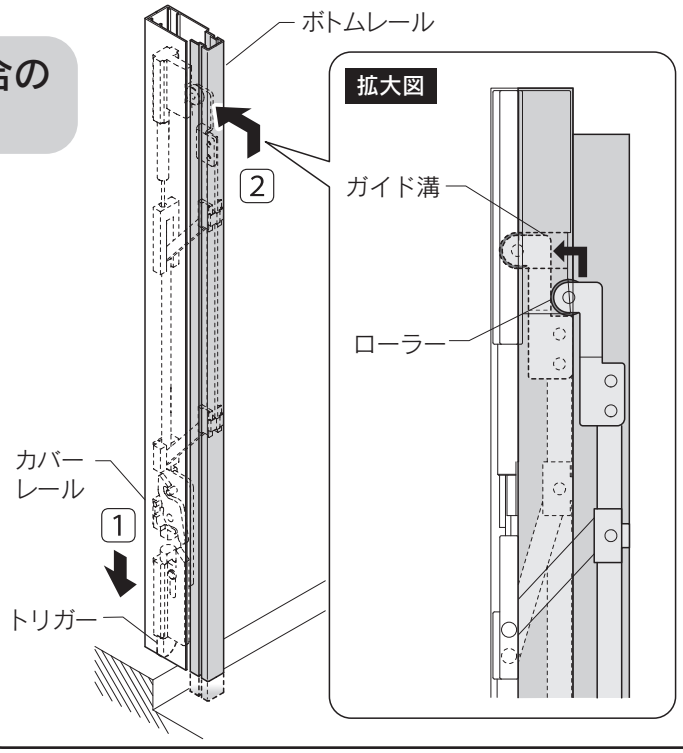
注意

トリガーが出すぎている場合は、起動が早くなり、閉じる手前で床を引きずります。

その場合は、トリガーの出寸法を再度調整してください。

ボトムレールが下に落ち、戻らない場合の対処方法

トリガーを押し込んだままで、ボトムレール内部のローラーがカバーレール内部のガイド溝にはまるように戻す。



株式会社SKB 〒577-0032 大阪府東大阪市御厨1-5-3

TEL:06-6788-1518 FAX:06-6788-2056

www.skb-net.co.jp

DS121908-02